NEVER World TRAVEL in Alia world

星河　巡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＮＥＶＥＲ　Ｗｏｒｌｄ　ＴＲＡＶＥＬ　ｉｎ　Ａｌｉａ　ｗｏｒｌｄ

【Ｎコード】
Ｎ８８０７Ｚ

【作者名】
星河　巡

【あらすじ】
学校帰りに電車で寝てたら違う世界に来ちゃった、と言うところから話は始まる。　自分のいた場所、地名はそのままで何かが違う世界に行ってしまったら君ならどうする？　世界移動シリーズ緋弾のアリア編です

第一話　【驚きの世界移動】（前書き）

そらのおとしものの小説の前にはっちゃけて書いちゃいました
まだまだ、文章力はないので、そこは勘弁してね
ちなみにこの小説は緋弾のアリアです【この話だけではわかりにくい】

では本文の方へＧＯ♪

第一話　【驚きの世界移動】

視点：巡

いったいどういうことだろうか？
俺の目の前で銃を持った連中が電車をジャックしているんだが・・・

「この電車は我々が確保した！　抵抗する物は容赦なく殺すぞ」

とかお決まりのアニメチックなセリフをほざいてやがるのだが
なんだろうかこの気持ちは、俺はものすごい違和感を感じていた

学校が終わり、最寄り駅の妙林寺で渋谷行きの電車に乗ったのだが
電車で席に座れた後、俺はすぐに眠りについたので何があったのか
全く把握出来ていないのだ

そもそも銃持った連中が電車をジャックしてるとかシチュ的におか
しいだろって
もう何年も電車ジャックなんか起きてねぇってば

っと心の中で思ったときだった
連中の一人が銃を発砲した

ドォンともバンとも聞こえるその音に周りの人は耳を押さえていた
もちろん俺もだが耳鳴りなど気にならなかった・・・・

なぜなら連中の一人が発砲したのは天井に対しての威嚇発射ではなく
一人の人間に対して向けられた物だった

その人は家族連れでいたって平和に見える家庭の母親のようだった
これを見た父親は鬼の形相で発砲したテロリストに飛びかかっていた

「貴様ぁよくもぉ！」

飛びかかられたテロリストは抵抗したが飛びかかられているので
銃を使えないが、彼は無線で別車両にいる仲間に連絡を取り援護を
要請していた
「こちらは４両目監視員の、残　念太だ！
乗客の２人が抵抗してきた、一人は射殺したがもう一人が押さえら
れない、援護を要請する」

２人！？
一人はお前が勝手に殺したんだろうが、などとテロリストに言って
も無駄だという事など
わかっていたのであえて言わなかった、というより言えなかったと
いう方が正しいだろう
そう、命が惜しかったのだ

だがその気持ちはこの声を聞いてしまった時、吹っ飛んだ！
その声を発したのは父親と母親を目の前で殺されたさっきの親子の
娘だった

「お父さん、お母さん死んじゃやだよー」
その少女の父親は少し前に来た援護班に射殺された

辺りには鮮血飛び散っている
だがテロリストたちは何も思うことなく、泣いているこの少女にま
で銃を向けたのだ。

そのとき俺はとっさにテロリストの一人に戦闘行為を仕掛けていた
だが実際は戦闘行為などと言う大それた物ではなく自分の好きなス
テルスゲーム
で見たＣＱＣと呼ばれる柔道技にも思える格闘技だった

この技はゲームのムービーで見たりしただけだが
何回も見ているので俺にも真似できるのだ

ＣＱＣでテロリストの一人を無力化し足のホルスターからハンドガ
ンを奪い
もう一人に発砲しまた一人また一人と射殺する、弾は見事に脳天命
中した

「くそぉぉぉぉぉぉぉぉぉ」と叫び
テロリストの残りの数人が怒り狂い銃を乱射しようとしたとき
俺は少女をかばうように抱きかかえしゃがんだ

銃の弾がいろいろなところに当たりテロリストのマシンガンの弾が
切れた
だがまだハンドガンがある

そのことにもちろん気づいているテロリストは
ハンドガンの銃口を俺たちに向ける

「ガキだと思って油断したがこれまでだ、死ね！」

と言い引き金を引こうとしてテロリストの動きが止まった

何者かがテロリストを射殺したのだ

「今度はいったい何だ！」
そう叫んだときだった
テロリストを射殺したと思われるその男は、俺に話しかけてきた
「その武術どこで学んだ？」
少し怒っているような風にも聞こえる
俺は「別に・・・」っと答えた
すると男は
「そうか、俺の名前は次元大介だ、覚えときな坊主
お前の名前はなんていう？」っと聞いてきたので俺はこればかりは
正直に答えた
「星河巡だ、覚えなくて良い」と言った
男は少しうれしそうな顔をして
「メグリか良い名だ、覚えておくぜ　また会おう」
っと言い残し去っていった
男が去っていって数分後に電車は千円上手駅で止まった
車両の扉が開いてすぐに警察隊が入ってきて状況の確認をし始めた
「ん、次元大介？　次元、次元　え～と」
あっ、と声を上げて俺は次元大介というのが誰なのか思い出した

「ルパン三世の相棒じゃねぇーか
冗談言うなよ！確かに容姿は似てたと思うけどコスかなんかじゃねぇのか？」

驚くのも当たり前、彼が本物の次元大介であると確信したのはもう少し後だった

警察が俺の元に来て遺体の確認をし事情聞いてきたので
俺は包み隠さず本当の事を言った

俺がテロリストを殺してしまった件に関しては
正当防衛として話を適用してくれるらしい

と安心したが、そんなとき少女は俺に言ってきた

「どうしてもっと早く戦ってくれなかったんですか！
もっと早くあなたが出て来てくれれば結果は変わったはずです」

少女は泣きながら叫んでいた

そんな少女に対して俺は何も言える事が無く
ただ、「ごめん」
と言う事しかできなかった。

視点：次元

星河巡か、久々におもしろい奴を見つけたぜ
またお前とすごしたみたいなおもしれぇ日々が戻ってくんのかねぇ？

「なぁ、ルパンよぉ」
次元は空に向けてただそうつぶやく

そして携帯電話を取りだしどこかに電話する

「俺だ、良い人材を見つけたぞ
確保はそっちで好きにしな、金は俺の口座に振り込んでおいてくれ
あぁ、そうだ、それで良い、あぁ、じゃあな」

そう言って彼は、電話を切り眠りについた

この数日後、俺の武偵としての生活が始まる事になるとは
夢にも思っていなかった・・・・・

ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅｄ〈続きを待つべし〉

第一話　【驚きの世界移動】（後書き）

いかがでしたか？

少し文章が雑かもしれませんがそこは徐々に直していくという事でご勘弁を・・・ｗ

ではＱ＆ａｍｐ；Ａ　をもうけます、質問されそうな事ばりばり書くよ～

Ｑ１、なんで世界移動したの？
Ａ１、まず一話の時点で主人公【俺】はおかしいとは思っていても世界移動した事に気づいてません

Ｑ２、矛盾多くない？
Ａ２、いやだって　まだ勉強不足なんだもんｗ

Ｑ３なんでＣＱＣなの？
Ａ３実際に得意だからです

Ｑ４、普通素人で弾を脳天に当てるなんて無理だろ～
Ａ４、いちおー私撃った事ありますけど・・・百発百中では無いのでマグレって事にしておいてちょ

Ｑ５、テロリストは何人くらいなの？
Ａ５、１０人くらいかと・・・実際決めてませんｗ　ちなみにそのうち三人は次元が殺しました

Ｑ６、家族を殺された女の子はなんなの？

Ａ６、後々主人公【俺】が保護する事になります

Ｑ７、次元は誰と話してたの？
Ａ７、武偵高の関係者です、巡【俺】を武偵にする話をしてました
次元は謎の男という設定なので（ルパン３世が死んでから）
武偵高の関係者も正体までは知りません
次元もなんだかんだ言って巡に直接接触するつもりです

以上です
文章の誤字脱字見つけたらお気軽に指摘してください

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8807z/

NEVER World TRAVEL in Alia world

2011年12月27日19時51分発行